

(9) 代表的な疾患と算定日数の関係

代表的な疾患と算定日数の関係、及びその患者の内訳は次のとおりである。

算定日数上限前にリハビリテーション料の算定を終了した患者のうち、「身体機能の改善の見込みがある」とされた患者の割合が高い。これは、調査に回答した医療機関でのリハビリテーションが終了した患者が対象であり、実際にはその後、他の医療機関にてリハビリテーションを実施しているものと推察される。

表 6.4-1 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限前に終了)

	上限前 (135日まで)					
	これ以上改善の見込みはない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
介護保険対象		介護保険対象外	無回答			
合計 (N=208)	69	12	2	1	118	6
	33.2%	5.8%	1.0%	0.5%	56.7%	2.9%
その他の急性発症した心大血管疾患又はその手術後の患者 (N=78)	23	3	2	1	47	2
	29.5%	3.9%	2.6%	1.3%	60.3%	2.6%
急性心筋梗塞 (N=57)	18	2	0	0	36	1
	31.6%	3.5%	0.0%	0.0%	63.2%	1.8%
慢性心不全 (N=34)	16	4	0	0	13	1
	47.1%	11.8%	0.0%	0.0%	38.2%	3.0%
狭心症発作 (N=23)	7	2	0	0	12	2
	30.4%	8.7%	0.0%	0.0%	52.2%	8.7%
その他 (N=16)	5	1	0	0	10	0
	31.3%	6.3%	0.0%	0.0%	62.5%	0.0%

表 6.4-2 代表的な疾患と算定日数の関係(算定日数上限をもって終了)

	上限 (136~150日) をもって終了					
	これ以上改善の見込みはない				身体機能の改善の見込みがある	無回答
	生活の場で状態維持が可能	状態維持のためにリハの継続が必要				
介護保険対象		介護保険対象外	無回答			
合計 (N=259)	6	2	3	0	19	1
	2.3%	0.8%	1.2%	0.0%	7.3%	0.4%